

コード	502020101
記入日	H22.6.10

事務事業途中評価表

課コード	125
課名	生涯学習課
課長名	西川義男
担当者	山本祥文

作成年度	平成 22 年度
------	----------

評価対象事業名称	移動図書館車活用事業
----------	------------

事業種類	単年度繰返事業
事業期間	平成 17 年度 ~ 平成 年度

総合計画の位置付け				財務会計の位置付け	
政策コード	5	政策名称	しまの誇り・文化の育成	款コード	10
施策コード	502	施策名称	生涯学習の充実	項コード	5
基本事業コード	50202	基本事業名称	生涯学習の推進	目コード	3
事務事業コード	5020201	事務事業名称	読書活動の推進	細目コード	102
関連計画			法令・条例規則等	新上五島町図書館条例施工規則	

計画(PLAN) ※単年度繰返事業については、全体欄を*****とする。

対象:誰、何を対象にしているのか		対象指標:対象の大きさを表す指標				
(対象1) 住民		(対象指標1) 23,719人(H21.4.1現在)				
(対象2)		(対象指標2)				
事業の概要:具体的なやり方、手順、詳細を記入		活動指標:事務事業の活動量を表す指標・達成率 (上段:全体、下段:評価年度)				
(全体)	(評価年度実績)	(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
*****	図書館から遠い地区を重点に巡回し、読書の普及を図る。移動図書館車 3台年間巡回日数 116日 貸出冊数 23,972冊	*****	*****	*****	巡回日数196日÷計画した巡回日数205日	*****
		① 巡回日数	196日	96%		平成21年度
		(達成率分析)	天候等により、実施されない日もあったが、予定どおり実施した。			
		*****	*****	*****	*****	*****
		②				
		(達成率分析)				
目的:何をしたいのか		成果指標:目的の達成度を表す指標・達成率 (上段:全体、下段:評価年度)				
町民がいつでも、どこでも、誰でも読書活動ができるような環境の充実のために移動図書館車の町内全地域への巡回と町民一人一人の読書活動の充実を図りたい。		(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
		*****	*****	*****	貸出冊数23,972冊÷計画した貸出冊数25,777冊(前年度実績)	*****
		① 貸出冊数	23,972冊	93%		平成21年度
		(達成率分析)	町内全地域を巡回する計画であるが借りる人がいる地区を重点的に巡回した。			
		*****	*****	*****	利用者数4,711人÷計画した利用者数4,959人	*****
		② 利用者数	4,711人	95%		平成21年度
		(達成率分析)	町民1人1回の利用を目標としたが、PR、巡回日の周知不足などにより利用者数が増えなかった。			

実施(DO) ※単年度繰返事業については、評価終了した年度及び評価年度を記載し、その合計を全体計画欄に記載する。

	単位	全体計画		平成20年度以前	平成21年度		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度以降
		計画	実績	実績	計画	実績	計画	計画	計画	計画	
活動指標	① 日	625	616	616	205	196					
	②										
成果指標	① 冊	98,622	120,502	96,530	25,777	23,972					
	② 人	23,526	23,278	18,567	4,959	4,711					
総事業費C(A+B)	千円	12,392	12,060	9,559	2,833	2,501					
直接事業費A	千円	8,892	8,560	6,759	2,133	1,801					
人件費B	千円	3,500	3,500	2,800	700	700					
内訳	従事職員数	人	0.5	0.5	0.4	0.1	0.1				
	人件費単価	千円	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000
Cの財源内訳	国補助金	千円									
	県補助金	千円									
	起債	千円									
	その他	千円									
一般財源	千円	12,392	12,060	9,559	2,833	2,501					

評価(CHECK) ※理由の欄は必ず記載すること。

妥当性	町が税金を投入して行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由 読書活動の推進や地域間の格差更正のために、必要な事業である。
	時代情勢や環境の変化などを考慮しても、事業を行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由 図書館の整備環境を考慮すると、利用者の利便性の確保や地域間の格差是正のためには必要である。
	事業の対象・目的は適切ですか。	●適切 ●不適切	理由 読書活動の推進と利用者の利便性の確保であり、適切である。
有効性	現在の事業の進め方が期待されるような成果をもたらしていますか。	●いる ●いない	理由 町民がいつでも、どこでも、だれでも本を貸し出しができる環境ができた。
	成果を向上させる余地はありますか。	●ある ●ない	理由 巡回の日数をふやしたり、貸し出し上限を増やすことにより向上する余地がある。
	事業を行わない場合の影響はありますか。	●ある ●ない	理由 町民への読書活動推進と読書環境の提供が行われず、潤いのある住んで良かったと感じられる町づくりができない。
	類似事業との整理統合はできませんか。	できる ●できない	理由 読書活動推進の柱として実施しているため類似事業との整理統合はできない。
効率性	直接事業費を削減することはできませんか。	できる ●できない	理由 活動を行うための必要な部分を計上しているためこれ以上の削減はできない。以上の削減はできない。
	人件費を削減することはできませんか。	できる ●できない	理由 限られた人件費野中で効率を上げるよう努力を図っているため、これ以上の削減はできない。
	受益者負担は適正ですか。	●はい ●いいえ	理由 現時点では発生できない。

改善(ACTION)

改善策	1次評価	妥当性	現在のところ計画を見直す必要はない。
		有効性	巡回の日数を増やすことにより有効性を上げることができる。
		効率性	現在のところ計画を見直す必要はない。
		課題に向けた改善策	特になし
	2次評価	妥当性	1次評価のとおり
有効性		現在の体制での図書館車の活用状況に対し、住民の利便性が確保されているのであれば現行のまま事業を実施する。	
効率性		図書館車の活用においては事故等がないよう努めるとともに、維持・管理経費の執行については適正に行うこと。	

住民等の意見	
町の対応	

今後の事業の方向性	1次	2次	3次		1次	2次	3次	
	●	●		このまま事業を継続				類似事業と整理統合
				事業内容を見直して事業を継続				事業の休止
				事業費を見直して事業を継続				事業の廃止

※3次評価については、住民等の意見があった場合にのみ、再公表するものとする。